

高等学校芸術科（書道）採点基準

4枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点		
一	問一	ア	まおうたいはくしょ		各 1 × 5	
		イ	なかつかさしゅう			
		ウ	ちょうもうふ			
		エ	とうもぼん			
		オ	ふじ			
	問二	ア	筆を運ぶとき、筆を持つ手の手首をもう一方の手の甲の上 のせる構え方。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	各 3 × 5	
		イ	切り立った岩山や崖など、天然の岩肌に刻された銘文。			
		ウ	篆書の種類の一つで、四角い印に合うように工夫された書体。			
		エ	書の古典の一節を臨書すること。			
		オ	書体の一種で、扁平な刷毛で書いたような書きぶり、空 中を飛動するかの筆勢がある。			
	問三	ア	淳化閣帖		各 3 × 3	
		イ	呉昌碩			
		ウ	田黄			
		エ	小野道風	順序は問わない。	各 2 × 3	
			藤原佐理 藤原行成			
	問四	ア	① 蘇軾	蘇東坡 もよい。	各 2 × 2	
			② 黄庭堅	黄山谷 もよい。		
		イ	a	惜		各 1 × 5
			b	両		
			c	如		
d			湿			
e			紙			
ウ		書画等を入手したり鑑賞した者が、書画の後のスペースに感 想・来歴・考証等を文や詩にして書き込んだもの。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	3		
エ		蘇軾のこの詩は李白に似ているが、李白もこの境地には達し ていないのではなかろうか。この書は顔真卿・楊凝式・李建中 の書のところを兼ね備えている。蘇軾がもう一度これを書いた としても、これほどのできばえになるとは限らないだろう。い つの日か、蘇軾がこのあとがきを見たならば、きっと私を笑う に違いない。詩を書いた当人がいないところで、私があとがき で競おうとしている、と。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	6		
オ		横画をゆったり長めに引いていて、筆力は充実している。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	2		

80

高等学校芸術科（書道）採点基準

4枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
問五	ア 十五番歌合		2
	イ 典麗優雅な仮名とは異なる、大ぶりの草仮名による、力強い表現となっている。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	2
	ウ 美与之乃		3
	エ つもるらし		3
問六	ア ② 一休宗純 ③ 藤原定家 ④ 本阿弥光悦		各 2 × 3
	イ ③ → ② → ④ → ①		3
	ウ 紙面に対して文字が扁平で大きく、線の肥瘦の変化が激しい。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	2
	エ ・漢字は大きく、片仮名は小さく書き、よく調和している。 ・線は繊細で力みがない。 ・行間、字間は不ぞろいである。 ・行は曲がっているが、流れがある。	2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 2 × 2
	問一 ① 整齊な八分と少し趣を異にした古拙な線で点画を角張らせた険勁な書風であり、字形は縦長や方形のものが多い。波磔は力を込めて重厚につくっている。 ② 自由奔放でありながら格調高い。力強い筆力と躍動感がある。運筆には緩急と抑揚の妙がある。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 2 × 2
問二	<p>＜選んだ図版 … ①＞</p> <p>○全体の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の大きさと形式…半切1/2、紙は横向きに使用する。 ・字配り…右から左に「飛」「躍」の順に並べる。 ・余白…隷書特有の左右に伸びる線を生かして、上下の余白を利かす。 <p>○用具・用材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆の種類…強い作品にするため、剛豪筆を使用する。 ・墨の濃淡、潤濁…墨は濃墨、渴筆を利かして勢いを出す。 ・紙…激しい筆遣いのため厚手のものを使用し、更ににじみの少ない紙を使用する。 <p>○制作意図及び作品展示の場所とその効果</p> <p>隷書、「張遷碑」の素朴さ、剛健さを「飛躍」の元気良さと、将来に向かって勢いよく進もうとすることに加え、現在の安定感と重厚感を持ちつつ、兼ね備えた表現を試みたい。展示場所は学校の生徒入口（下駄箱のフロア）、毎朝見かける場所で、一日の意欲と活力を促す。</p>	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	4 8
	<p>＜選んだ図版 … ②＞</p> <p>○全体の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の大きさと形式…全紙、縦向きに使用する。 ・字配り…縦書きに「飛躍」と書く。 ・余白…紙全体を使用するため少なくする。 <p>○用具・用材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆の種類…太めの羊毛を使用する。 ・墨の濃淡、潤濁…松煙墨または青墨を淡墨にして使用し、うるおい豊かに書く。 ・紙…にじみのよく出る画仙紙を使用する。 <p>○制作意図及び作品展示の場所とその効果</p> <p>抑揚と緩急の変化があるこの書跡は、「飛躍」の活動的で意欲的な勢いに適している。この2文字を縦書きにし、文字と文字群の流れを強調したい。そして、墨は敢えて淡墨とし、にじみを利かして柔らかさと広がり表現したい。展示場所は町の公民館を想定している。高齢化の社会において、生涯学習の観点から、いつまでもやむことなく続く地域活動が発展するような願いを込める。</p>		4 4

高等学校芸術科（書道）採点基準

4枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点
問一	改善された点	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね起筆が逆筆・蔵鋒になった。 ・送筆が中鋒になった。 ・「金」の横画と横画の間（分間）がほぼ均等になった。 ・「金」の字形が概ね左右相称になった。 ・「石」の「口」の位置が正され、ゆがみ（傾き）が修正された。 	3つ書かれていればよい。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい	各2×3
	指導する点	<ul style="list-style-type: none"> ・起筆を全て逆筆・蔵鋒にする。 ・収筆を押さえすぎず、軽く止める。 ・常用漢字でいう「金」の1画目と「石」の2画目の線の反りをもう少し直線的にする。 ・横画は水平にする。 ・常用漢字でいう「金」の1画目、2画目が形成する幅と4画目、8画目の横画の幅が同じになるようにする。 	3つ書かれていればよい。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。	各2×3
問二	時	学習活動	指導上の留意事項	問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。 学習活動と指導上の留意事項が対応しているものだけを正答とする。
	1・2	「高野切第三種」の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・線が細く曲線的で、流れるような律動感のある典麗・優雅な平安時代の仮名の美を感じ取らせる。 ・「高野切」の伝来と「第三種」の意味、和歌の内容と大意、書風や料紙について理解させる。 	
	3・4	「高野切第三種」による連綿の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・連綿線は、文字と文字の接続線であるだけでなく、そこに表れる線質が「仮名の書」の美の重要な要素であり、「仮名の書」特有の表現性や風趣を生み出していることを理解させる。 ・連綿の学習においては、運筆の律動性や筆脈の把握を通して、字と字を無理なく自然に続ける表現として捉え、その技能を身に付けさせる。 	
	5・6	「高野切第三種」の臨書	<ul style="list-style-type: none"> ・むだのない伸びやかな線質で、明快な字形を作り、流れるような連綿を紡いでいる「高野切第三種」の特徴を意識して臨書させる。 ・運筆の遅速、緩急、また墨色や墨量の違いにより線質が変化することを実感させ、それが書風と関わっていることを理解させる。 	
	7・8	紙面構成の工夫（散らし書き）についての学習 「高野切第三種」による散らし書きの草稿作成と練習	<ul style="list-style-type: none"> ・行の長短や高低、行間の余白を生かした散らし書きの構成に気付かせ、意識して取り組ませる。 ・仮名の美を形づくる重要な要素である散らし書きの美しさを感じさせ、自己の表現の工夫に取り組ませる。 	
	9・10	「高野切第三種」による散らし書きの清書 清書作品の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・臨書を通して身に付けた用筆・運筆、字形、全体の構成に留意して清書させる。 ・お互いの作品を鑑賞し、言語活動を通して、感じたことを言葉で表現し、考えを伝えあい深めさせる。 	
問三	ア	字を書くときの形勢については、まず精しく考え、じっくりと察して、そうしてやっと筆を下すことが大切である。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてよい。	各5×2
	イ	書作には自己の主張が必要である。しかし、古人の書を学ばないでよいという意味ではない。		

5 2

3 0

高等学校芸術科（書道）採点基準

4枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点	
四	臨書活動	古典における線質、字形、構成等の要素とそこに生じる表現性、表現効果や風趣を捉え、古典の特徴を生かして効果的に作品として表現する技能。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 10 × 2	20
	創作活動	意図に基づいて作品を構想し、古典の特徴を生かしながら作品として効果的に表現する技能。			